

ブドウの産地形成にかかる個選共販体制の整備と出荷規格に応じた生産の実践

甲賀農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

甲賀地域ぶどう栽培研究会は平成 29 年に設立され、現在 23 戸の農家が参画しています。生産されたブドウは主に直売所に出荷されており、未成園の農家も多く、今後直売所へのお荷量が増加することから、研究会内で直売所が飽和状態になる不安が挙がっていました。このため、昨年度から量販店へのお荷を行っていますが、量販店へのお荷は一部の研究会員にとどまっており、また、現在管内で問題となっている着色不良が原因で量販店へのお荷を見送る農家もありました。そこで、量販店お荷を推進するとともに、着色不良の改善に向けた栽培管理技術の習得支援を行いました。また、近年、管内でブドウの新規栽培者が増加していることを受け、今年度から新規栽培者に対して「トレーニング園」を活用した栽培技術習得支援を開始しました。

【普及活動の内容】

量販店お荷の推進については、研修会で直売所のブドウ販売状況をデータで示し、今後直売所でブドウが飽和することから新たなお荷先が必要であることについて、研究会員、関係機関で意識共有を図りました。また、JA と連携し、量販店へのお荷意向についてのアンケート調査やお荷説明会を行い、量販店お荷に対する疑問点を解消するなどしてお荷を誘導しました。着色不良の改善に向けては、研修会で赤系品種を中心に着色促進技術を説明するとともに、研究会員のほ場を巡回し、着果量の調整やお場の光環境の整備など、各ほ場に合わせた着色向上技術の習得を支援しました。また、「トレーニング園」については、関係機関と連携して現地研修会を 14 回開催し、新規栽培者 2 名が萌芽確認から収穫までの主要な栽培管理作業を経験されました。



写真1 トレーニング園での様子(萌芽確認)

【普及活動の成果】

上記の活動の結果、今年度の量販店お荷農家は目標 10 戸には届かなかったものの、9 戸でのお荷となり、量販店での販売額は昨年度の約 1.4 倍の約 220 万円となりました。着色向上についても、各農家が着色向上に向けた管理を励行され、着色が難しい年でありながら主要農家 4 戸で秀品率 78%となりました。また、「トレーニング園」については、実際に栽培管理作業を経験することで、自園での初収穫に向けた自信につながりました。

◎対象者の意見

量販店お荷の選択肢があることで、大量に収穫でき販売に困った時でも売り先があるため、販売に関して頭を悩ませることが減り助かっている。(甲賀地域ぶどう栽培研究会会員)